

弥生土器から推定できる つくられた時期

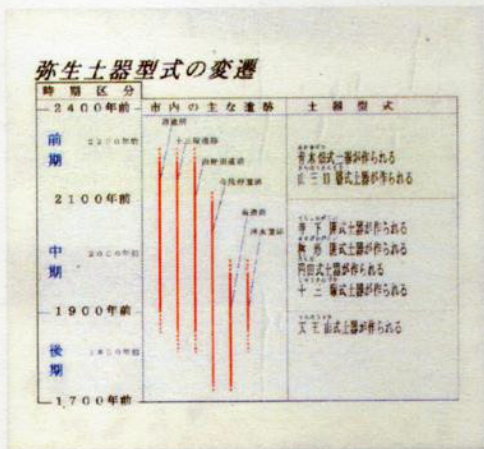
III-4-①

弥生土器は、その形や文様から、つくられた時期が推定できます。

形や文様の特徴が時間的・地域的にまとまりをもつ土器のグループを「型式」とし、それらが出土した遺跡の名前をとって「～式土器」と呼ばれています。例えば、きれいに平行する2～3本の沈線で文様が描かれる土器は、十三塚式土器と呼ばれ、東北地方南部において弥生時代中期の末頃のものとしてされています。

名取の地では、だいたい7つの型式の土器が出土しており、弥生時代において、土器の形や文様がどのように変化していったのかが解明されつつあります。

III-4-①



III-4-②

青木畑式土器

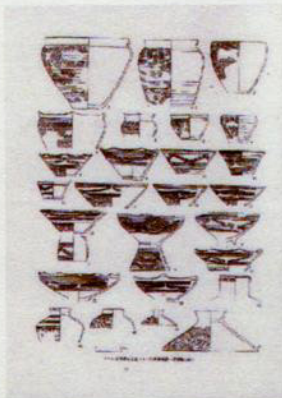
III-4-③



III-4-③

山王Ⅲ層式土器

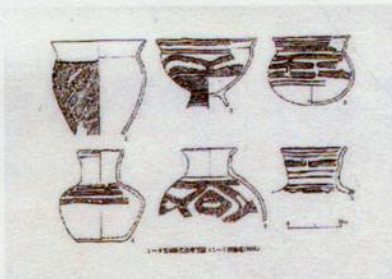
III-4-④



III-4-④

寺下囲式土器

III-4-⑤



III-4-⑤

楸形囲式土器

III-4-⑥



III-4-⑥

円田式土器

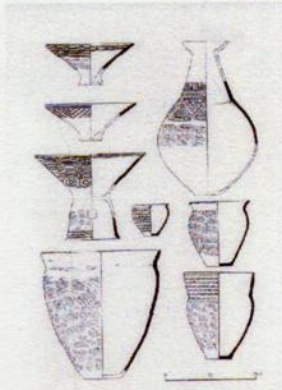
III-4-⑦



III-4-⑦

十三塚式土器

III-4-⑧



III-4-⑧

天王山式土器

III-4-⑨



III-4-⑨